

ガンコ親父の

ツルの恩返しの話は広く知られている。お爺さんが罾に掛かって苦しんでいたツルを助けてあげた。ツルは女性に姿を変えてお爺さんの家に向き、お礼にと立派な布を織って夫婦に差し出した。その織られた布は大変高額で売れたという。おかげで、貧しかった老夫婦も仲良く余生を暮らせたらしい。はた織り姿を見られたツルが泣く泣く去っていく結末は悲しいが、恩返しは実に美しい行為である。



ツルと違って、同じ鳥類なのに青サギはあまり人気がなかった。「オレオレ詐欺」をはじめとする悪行に手を染める青サギも多かったからだ。ある正義感の強い青サギがいて、この風潮を嘆いた。昔、古代エジプトでは聖鳥として崇められていた名譽ある鳥なのに、我が青サギ族は一体どうしてしまったのだらう。

ある夕刻、川の側でそんな考え事をしていた青サギは、うかつにも大雨の中で足を滑らせてしまった。倒れた青サギを見つけたのは、釣果ゼロで帰宅途中の松次郎だった。青サギのためにと、釣りで残っていた餌のミミズをくちばしの横に置いてあげた。その状況を目撃した悪い青サギが藪の中からじっと見ていた。

老いた松次郎夫婦の晩飯は魚が釣れなかったので、ご飯と味噌汁だけの質素な食事になった。「婆さんや。今日、釣りの帰りに倒れていた青サギに大切なミミズをあげてきた」。お婆さんは「今夜はその青サギがお礼に現れるかもね」と笑った。

夜中、玄関の戸を叩く音。「誰かのう?」と松次郎が尋ねると、「私は旅の途中で足を痛めた者です。今夜泊めていただけますか?」と女性の声。中に招き入れると、白とグレーの美しい着物姿の女性は、「泊めていただくお礼に、何かお作りしましょう。はた織り機はありますか?」。

「婆さんや、奥の部屋のはた織りの機械、まだ使えるんじゃないか?」お婆さんは頷いた。女性は部屋の中をぐるりと見渡した。貧しそうで金目の物は全くないが、中古販売で人気だという年代物ののはた織り機だけは奥の部屋に。奥の部屋で休ませてもらいますから、絶対に覗かないでくださいねと、その女性は心の中で赤い舌をペロリ。はた織り機は重いで、悪い青サギ仲間にも運搬を依頼していた。

夜中にゴトゴトと音がしたが、松次郎は綺麗な織物が手に入るという幸せな夢を見ながら寝入っていた。翌朝目覚めると、泊めていた女性もはた織り機も姿がなかった。善良な松次郎夫婦は詐欺に引かかったのだ。

脚を痛めた時に労ってくれた松次郎が、青サギの詐欺に引かかったという話が巷の噂で聞こえてきた。正義感の強い青サギはその時のお礼がまだだったので、自分の爪で作った釣り針と『しまっちゅ伝蔵』を持って、松次郎のお宅を探し、青サギの姿のまま訪問した。「すみません。青サギの仲間が悪いことをして。これはよく釣れる釣り針です。釣った魚を肴にどうぞ一杯やってください」。

その誠意に心を打たれた松次郎は盗難シヨックから立ち直った。風の便りではその後、松次郎は沢山釣れる魚で大儲けをし、お婆さんと末長く幸せに暮らしたという。

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251



25度 好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



喜界町 鹿児島県

「青サギ」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。